OLIS　2012　Chinese レポート

アジアの中国語圏の人たちを対象とする「OLIS 2012 Chinese」は、5 月 24 日(木)から 29 日(火)まで 6 日間、4 営業日にわたり、世田谷区等々力の「ジブラルタ生命坂口ラーニングセンター（SLC)」で開催されました。概要をレポートします。

♦　参加者

合計 25 名（男性 16 名、女性 9 名）

国(地域)と所属組織は次のとおりです。() 内は人数

中国(15)：太平人寿(12)、国泰人寿(1)、上海財経大(2)

香港(1)： 政府保険業管理局(1)

台湾(9)： 台湾人寿(2)、協会(1)、新光人寿(2)、郵政(1)、國華人寿(1)、國泰人寿(1)、金融監督管理委員会(1)

全員が開催日前日にあたる 23 日（水）夜までに SLC に付属する宿泊所に集合し、翌朝からの研修に参加しました。

♦　プログラム

➢　5 月 24 日（木）

開講式では岡本理事長の挨拶、受講生の自己紹介などが行われました。

引き続いて、保険社(保険情報紙)編集営業局部長の鈴木健市さんから「生保営業のイノベーション - 販売チャネルの創造」と題して、来店型ショップやインターネットなど、生命保険の新しい販売チャネルに関する講義がありました。今後の営業職員チャネルの展開やチャネルアライアンスなど、客観的に将来を見据えたもので、業界ウォッチャーならではのものでした。なお、この講義の通訳は、鈴木さんの依頼を受けて、セミナー受講者でもある國泰人寿東京駐在員事務所長の王さんが務められました。

お昼は会場を変えてウェルカムパーティ。國華人寿の温さんによる代表挨拶ののち、皆さんは寿司桶を囲んで互いの親睦をはかりながら、楽しいひとときを過ごしました。

午後はジブラルタ生命執行役員の坂口哲也さんによる講義「大災害と生命保険会社」。東日本大震災の被災者に対して、保険会社はいかにしてその本来業務である「支払」を果たそうとしたか。また、支払い問題にも言及することで、単に震災対応を語るのではなく、これらの問題を通じて保険会社のあるべき姿と理念を語っている姿が印象的でした。

- 5 月 25 日（金）

午前は金融庁監督局の植村信保さんによる「破綻生保のガバナンスと現在の保険行政の取り組み」で、経営破綻した生保の財務状況などの具体的状況をデータや関係者へのインタビューを踏まえての講義でした。低金利などの外的要因に保険会社のマネジメントなどの内的要因が加わったときに、生保といえど立ち行かなくなるという破綻の構図が理解できました。

講義の中で紹介した植村さんのご著書「経営なき破綻」の英訳版を頒布したところ、さながらサイン会のようになってしまいました。

昼食をはさんで午後はアジア生命保険振興センター事務局長の片野泰栄さんの「日本の生保業界の現状と課題」。業界の規模や業容の推移などを概説し現状を基本的な理解を得たあと、少子高齢化の進展により環境の激変が避けられないことを論じました。

- 5 月 28 日（月）

日本応用老年学会事務局の堀内裕子さんから「高齢化社会のイノベーション」として「老年学」に基づく講義がありました。分かっているようで、実は分かっていない高齢者。なぜならサービスを考えている我々自身が未体験だからなのです。ステージから何度も降りて、受講者にインタビューするなど双方向的な講義でした。なお、高齢者の身体的特徴などは、高齢者をマーケットとするとき保険会社が留意しなければならない基本的事項といえるでしょう。

午後はプルデンシャル生命の本多巨樹さんによる「生命保険信託による価値の共創」の講義でした。生命保険と信託を組み合わせることによって、障害のある子供を持つ親のニーズだけではなく、事業の継承や公益寄付などにも応用できるというのは驚きでした。

- 5 月 29 日（火）

毎回東京セミナーの最終日では生保のトップの方から「わが社の営業戦略」を語ってもらっています。今回はアフラック創業者最高顧問の大竹美喜さんにお願いしました。創業当時の 1974 年は全く無名だったアフラックを、大竹さんは基礎利益で業界第 5 位の会社に育て上げました。その背景にあるものは「愛」と「正義」と「社会の矛盾への挑戦」に集約されるということです。身体から溢れるようなエネルギーを、逆にぐっと抑えているような静かな語り口。事前にもらった質問に答える形で同社の戦略を説明されました。講演の最後にも質問に答える時間を設け、さまざまな疑問に丁寧にお答えいただきました。例えば「他社のガン保険との差別化は？」という質問に対しては、「当社を追うように同じようなガン保険が売り出されているが、最大の違いは支払に最も力を入れるという当社の企業文化。だからこの分野でのマーケットシェアは 80%を維持している」という回答でした。

常に広い視野から考えるように、ということで「心の中に地球儀を持つように」という言葉で締めくくられました。

午後は恒例のグループディスカッション。

６グループに分かれて「業界に迫りくる課題とそれへの対応」をテーマに討議し、代表者による発表が行われました。

続いて閉講式が行われ、岡本理事長の挨拶と修了証の授与が行われ、受講者を代表して上海財経大学の王さん及び台湾行政院金融監督管理委員会の施さんからご挨拶をいただきました。

最後に全員の記念撮影をして 1 週間にわたるセミナーは終了しました。

- 5 月 30 日（水）
  成田空港行きのバスは朝 6 時に、羽田空港行は 9 時に宿泊所を出発し、全員帰国の途につきました。

2012 年 5 月 31 日
OLICD Center 古藤